

作業・確認者氏名記入色分けでまたまた負担増!?

先月11日、チェックシート等の書面の記入方がまた変更され、作業員・確認者の氏名記入も「赤」「青」に色分けして記入するようになりました。

これまでチェックシート等の書面に関しては「作業頻度の高い作業でも正式のチェックシートが用意されていない」「用意されていても記入法がわかりづらい(記入しづらい)」「用意されているチェックシートに間違いや項目が足りない箇所がある」等々、様々な問題点があり改善を求めてきた結果、一部改善されたものもあります。しかし、未だにチェックシート等に四苦八苦しているのが現状ですが、今回また氏名記入を色分けしたことにより作業員の負担を増やしたと言えます。

チェックシート記入が目的化、それとも間違い探し??

管理者は、作業終了後、提出された書面を重箱の隅をつつくようにチェックしてチェック漏れ・チェック間違い(色違い等)、チェック項目の追加を指示するので、現場では「管理者はチェックシートで間違い探しをするために、わざと作業員の負担を増やしているのでは」という声すらあります。

チェックシート等の本格的活用拡大が開始されて1年以上経つのに未だにチェック漏れやチェック間違いがあるのは、チェックシート等のチェックの仕方が完全には理解されていないということと記入法がわかりづらいということが考えられます。

また、管理者から指摘を受けてチェック項目の追加をすることは、正式のチェックシートが用意されていないため、汎用のチェックシートで代行するので、作業員個々でチェックシートに記載するチェック項目の認識に違いが出てくるためです。

管理者は、以前行った同じ作業のチェックシートと見比べて項目の追加を指摘するのですが、対面チェックが基本のチェックシートを体裁を整えるために後で追加することは全くチェック機能を果たしていないということではないでしょうか。

私たちの日々行っている修繕作業は、安全安定輸送を支えるためのものです。このように作業終了後に体裁を整えるために後でチェック項目を追加するのでは、チェックシート等を記入することが目的化してきていると言えないでしょうか。

安全のために効率的かつ無駄ない職務の進め方を!!

新幹線鉄道事業本部の平成23年度重点項目の一つに「職務の進め方の見直しと低コスト化の推進」が掲げられています。民間企業として当然のことですが、現実の現場はそうはなっていないのではないのでしょうか。

上記のチェックシート類についても締結部品を使用しない作業なのに締結部品持出表の提出を強要したり、調査もなく機器交換だけでも強要される故障報告書、時系列等報告書にいたっては全く関係ないのに作業グループの一員ただだけで強要したり、全く問題なくても問題ないことを書くように強要される等々、無意味とも思われる書面を、時間を無駄に浪費し、紙を無駄遣いするもったいない行為を行っていることは全く職務の進め方の見直しどころか後退させ、低コスト化にも逆行したことが行われています。

私たち大阪修繕車両所分会は、新幹線の安全を守るために作業員の負担にならないような効率的かつ無駄のない職務の進め方への見直しを求めています。